

## 肉用牛広域後代検定推進事業

堀越忠泰，木村安之，津田和之<sup>1</sup>，相澤博美

Individual Performance Test of Sire in Japanese Black Cattle

Tadayasu HORIKOSHI, Yasuyuki KIMURA, Kazuyuki TSUDA, Hiromi AIZAWA

### 要 約

黒毛和種雄子牛4頭について，（社）全国和牛登録協会が定める産肉能力検定直接法に基づき飼育し検定した。

検定の結果は，1日平均増体量の平均が1.25 k gで，発育判定3以上を示したものは3頭であった。

4頭のうち2頭を選抜し，後代検定を実施する。

キーワード：和牛，種雄牛，直接検定，改良

### 緒 言

肉用牛の改良を図るため，優れた種雄牛を選抜することを目的に，肉用牛広域後代検定推進事業により選定された基礎雌牛から，指定交配により生産された雄子牛4頭を選抜し，（社）全国和牛登録協会が定めた産肉能力検定直接法に基づき飼育し検定した。

### 材料及び方法

#### 1. 供試牛

茨城県肉用牛広域後代検定推進事業で選定した基礎雌牛から，指定交配により生産された生後日齢202～238日齢の雄子牛4頭

#### 2. 検定期間

112日間とし，検定開始前20日間を予備飼育に充てた。

#### 3. 飼養管理

牛舎は舎内10.7m<sup>2</sup>に11.2m<sup>2</sup>の運動場を併設した単房式で，給水はウォーターカップにより，給塩は鉱塩を用いて自由摂取させた。

敷料はオガクズを使用し，牛床の清掃は毎日実施した。また，削蹄は適宜実施した。

飼料は新産肉能力検定（直接法）用配合飼料を体重比1.3%給与した。併せてチモシー主体の乾草（酪農一級品）を草架から自由採食させた。

#### 4. 調査事項

体重測定は2週間毎，体各部の測定は4週間毎に実施し，開始時と終了時に体型評価を行った。

飼料摂取量は毎日調査し，摂取養分量は「日本標準飼料成分表」1995年度版より算出した。

### 結果及び考察

検定を終了した4頭の成績は表-1のとおりである。

1. 1日平均増体量の平均は1.25 k gであった。
2. （社）全国和牛登録協会が定めた体高値による発育判定は3が3頭，2が1頭であった。
3. 検定を終了した4頭のうち，舞光、明安の2の2頭を選抜し，後代検定を実施することとした。

1 現茨城県農業総合センター土浦地域農業改良普及センター

表-1 直接検定成績の概要

整理番号		321	322	323	324
名号		舞光	明安の2	福忠美	初美5
登記記号番号		2002子全経黒467	2002子茨黒244	2002子全茨黒826	2002子全茨黒671
生年月日		H14.6.13	H14.6.12	H14.11.14	H14.10.20
生時体重		30	31	31	31
血統	父	明光4	明光4	美幸福	平茂勝
	母	まいこ	ふく	ふくじゅそう	はつみ55
検定開始年月日		H15.2.5	H15.2.5	H15.6.4	H15.6.4
開始時日齢		237	238	202	227
開始時体重 (Kg)		296.0	246.0	242.0	264.0
開始時体高 (cm)		113.4	109.4	106.2	109.2
検定終了年月日		H15.5.28	H15.5.28	H15.9.24	H15.9.24
終了時体重 (Kg)		434.0	397.0	374.0	416.0
終了時体高 (cm)		123.0	124.0	118.0	121.0
終了時審査得点		83.3	82.8	80.8	83.3
1日平均増体量 (Kg/日)		1.23	1.35	1.18	1.36
365日齢補正体重 (Kg)		454.0	417.0	434.1	451.3
1Kg増体当りTDN		5.1	4.1	4.2	4.0
粗飼料摂取率 (%)		57.2	57.4	52.5	50.1
期待育種価単位	枝肉重量	2	3	4	1
	ロース芯面積	1	2	3	4
	脂肪交雑	3	1	4	2
発育		3	3	2	3
終了時	優 点	体深 体幅	体伸 資質	被毛 乳徴	均称 後軀
体 型					
特 徴	欠 点	体上線 肘後	肩 尻の形状	発育 均称	肘後 下腿部
選抜の有無		選抜	選抜		